

令和5年度

事業報告書

[令和5年7月1日から令和6年6月30日まで]

一般財団法人 神道文化会

令和5年度事業報告書

A 実施事業(継続事業1 定款第4条1号から第5号)

1、神道の思想・文化に関する研究及び情報提供

(1) 学術研究書「神道文化叢書」の企画・編集

神道の思想や文化に関する高度な学術研究について公表の機会を提供するため、「神道文化叢書」を刊行している。本年度は第49輯『神道の喪葬儀礼と近代』塩川彩香著を令和6年6月30日に刊行。

(600部・関係者、会員等に配布)

(2) 機関誌「神道文化」第36号の発行

神道文化の普及、神道精神の昂揚を目的として、機関誌を発行している。随筆、対談(座談会、学術小論文等)を掲載。尚、本年度の座談会は「社会教育・教化と神道文化—教導職と明治初期の神道と宗教—」と題し下記の通り開催された。

(令和6年6月30日発行)

(1000部・関係者、会員等に配布)

(3) 座談会の開催

・日時 令和6年3月5日(火)午後7時から午後9時30分

・場所 リモート(zoom)形式による開催

・出席者 小平美香氏(天祖神社宮司、学習院大学兼任講師)、小林威朗氏(久伊豆神社宜、國學院大學兼任講師)、大谷栄一氏(佛教大学教授)、岡市仁志氏(本会事務局長、神社本庁主事)、司会/藤本頼生氏(國學院大學教授・本会理事)

・テーマ 「社会教育・教化と神道文化—教導職と明治初期の神道と宗教—」
明治初期に教部省のもとに大教宣布、国民教化にかかる役職の一つとして制定された教導職と明治初期の神道・宗教との関わりを、教導職の中央機関として設置された大教院を中心に出席者夫々の専門分野から議論が展開された。なお、本年も、リモートでの開催となった。

(4) 講演会の開催

毎年1回「神道文化」をテーマにした公開講演会や大学教授らによるミニシンポジウムを開催している。本年度は5年振りに会場を設けての開催となった。

・対象：一般公衆(ホームページ、ダイレクトメール、神社新報等により開催を告知)

・日時 令和6年6月15日(土)午後1時から4時30分

・場所 國學院大學若木キャンパス 100周年記念講堂

- ・テーマ 「平安時代と神道文化」
- ・講演Ⅰ 「新しい信仰世界の登場」
岡田 莊司氏（國學院大學教授）
- ・講演Ⅱ 「平安時代の天皇と貴族、そして伊勢神宮」
藤森 馨氏（国士舘大学教授）
- ・トークセッション 司会/加瀬直弥氏（國學院大學教授）
- ・参加者 約 80 名

なお、本講演会は講録を作成し、会員をはじめ一般の方々にも配布できるものとして企画している。

2、神道文化功労者表彰

毎年、当会の「神道文化表彰規程」に基づき、神道文化の昂揚、普及、研究に功績のあった個人もしくは団体を選定し、表彰を行っている。

表彰対象は以下の通りである。

- 1 多年神道文化高揚に精励し、その功績拔群なる個人もしくは団体
- 2 神道文化に関する学術研究において、その功績の顕著なるもの
- 3 神道ならびに神社に関する広報・教化活動において、その功績顕著なるもの
- 4 神道関係団体において、その活動が優秀なるもの
- 5 神道文化高揚のため功労あるもの

本年度支給総額：50 万円。表彰選考委員会開催（令和 6 年 4 月 10 日）において決定。

（表彰式開催：令和 6 年 5 月 24 日 於・東京大神宮マツヤサロン）

《令和 5 年度被表彰者名》

(1) 嵯峨井 建殿

（大阪府）

氏は国大専攻科修了後、日吉大社、賀茂御祖神社に長年奉職し、在職中は、奉務神社の歴史・祭儀・神職など、又広く神仏関係や祭祀研究と日本文化などについて史料に基づき研究し数多くの論文を発表、評価を受ける。その間『日吉大社と山王権現』で神道宗教学会奨励賞を受賞、また、平成 21 年國學院大學より、「神仏習合の歴史と儀礼空間」で博士（神道学）を授与された。それに加え、氏は近代の海外神社にも深い関心をもって取り組み『満州の神社興亡史—日本人の行くところ神社あり—』を出版、そこには満州各地に入植した開拓団の現存者、神社関係者らの証言等をもとに、神社の姿と人々の営みなどが記録されている。また、時を置いて昨年（令和 5 年 8 月）には、『満州国の双廟—ラストエンペラー溥儀と日本—』を上梓。その内容は、満州建国 7 年目の昭和 15 年、首都の新京に創建されわずか 5 年で満州国崩壊とともに廃絶となった建国新廟、建国忠霊廟が収録されており力作である。神職として研究者としての業績は顕著である。

記念品料 10万円支給

(2)若宮八幡宮 宮司 和田忠彦殿 (茨城県)

茨城県常陸太田市鎮座の若宮八幡宮宮司の和田忠彦氏は、令和5年歴史学博士の高橋裕文氏と共著し、若宮八幡叢書Ⅰ『若宮八幡宮の歴史と社寶』、同叢書Ⅱ『若宮八幡宮文書』を刊行。両書は、同八幡宮の六百数十年に及ぶ歴史・祭祀・文化を網羅している。同八幡宮は佐竹一族の守護神として鎌倉鶴岡八幡宮の御分霊を勧請し舞鶴城中に祀ったとされ、元禄年間に徳川光圀公の一村一鎮守制により太田村の鎮守となり氏子の篤い崇敬を受けて現在に至る。御祭神は大鷦鷯命で、御祭神としては県内で唯一の神社であるが、由緒は詳らかではなく、この度その歴史を明らかにし、後世に伝えるべく神社に保存された古文書等を解説し、歴史を紐解き宝物・古文書を史料集として纏めた。その努力は評価される。

記念品料 10万円支給

(3)竹駒神社殿 (宮城県)

竹駒神社御創建1180年記念事業の一環として、馬事博物館の建物調査や修復整備を取り進め、その調査と修復の過程を記録した貴重な資料を取り纏めた『竹駒神社馬事博物館 建物調査報告書』を発刊。馬事博物館は、宮城県の岩沼が古くから馬の集散地であり、江戸時代には竹駒神社境内で毎年馬市が開かれるようになり、全国屈指の馬市として名をはせた。そのような歴史的背景のなか、元台湾商工銀行頭取木村匡氏より1126点の馬に関する貴重な収集品を寄贈されことを機に博物館が建設され昭和13年6月に竣工した。同書は各分野の専門家による「馬事博物館調査検討委員会」を立ち上げ、構造、デザイン建築資料の検討をすすめ、専門的観点から分析がなされた貴重な資料集である。

記念品料 10万円支給

(4)三宅島巨樹の会「やどり木」殿 (東京都)

三宅島は最近500年の間に13回の噴火が起きているというが、全島避難を余儀なくさせた平成13年の噴火では、火山ガス、酸性化した雨や霧などにより島の6割にあたる森林が壊滅的な被害に遭ったといわれる。本年3月に刊行された写真集『邂逅の譜』に納められたのは推定樹齢千年の椎、同じく五百年の桜、二百五十年の大榎や銀杏など島の長い歴史を生き抜いた巨樹の姿である。記録された巨樹のなかには神社ゆかりの木々も多く、巨樹に邂逅した記録がまとめられている。自然災害が多発する昨今にあって、本書は巨樹巨木を御神木として信仰してきた日本人の歴史を記録した書籍として意義深い。

記念品料 10万円支給

(5)田代神社 宮司 大橋裕幸殿 (岐阜県)

氏は、岐阜・田代神社の宮司で奉仕の傍ら、江戸時代に同神社へ奉納された二つの算額

について、近年では算額が外国の数学者からの関心も高いことを踏まえ、広く紹介すべく解説冊子『田代神社の算額 江戸和算文化の真髓を伝える』を刊行。

同書は天保12年(1841)8月の「奉献年次算題」(町指定重要文化財)、弘化2年(1845)8月の「奉納算役次編」でいずれも写真と翻刻・訓読文や現代語訳を掲載している。しかし算額には問題と回答のみが記されているため、数学者の協力を得て、現代的な解法や論攷も併載され、また、氏自身が英語教師であった経験を活かし英訳文が付されており、広く紹介するに可能な一冊となっている。

記念品料10万円支給

3、助成金支給事業

(ア)神道芸能普及費の支給

当会の「神道芸能普及費支給規程」に基づき、神道芸能の普及・昂揚のため活動している個人及び団体に対して、援助金を支給し、その活動を支援している。支援対象は以下の通りである。

- 1 歴史的民俗的に神道及び神社とかかわりある音楽ならびに舞踊(その他これに類するものを含む・以下同じ)
- 2 神道行事に関わる音楽ならびに舞踊
- 3 神社祭祀に関わる音楽ならびに舞踊
- 4 神道文化昂揚普及に関わる音楽ならびに舞踊

本年度支給額：30万円 表彰選考委員会開催(令和6年4月10日)において決定
(伝達式開催:令和6年5月24日 於・東京大神宮マツヤサロン)

《令和5年度受給者名》

(1)上村獅子保存会殿 (愛媛県)

同保存会は、昭和50年に愛媛県東温市鎮座の船川神社の秋季大祭の活性化を図るために発足した。発足により、獅子舞の披露は八か所で演舞することが可能となり、地域の認知度向上だけでなく活性化に繋がることとなった。また、さらなる活性化に向け子供の獅子舞が約30年前に開始され、大祭三週間まえより大人と子供と一緒に練習に励むことになった。また、女の子による太鼓の練習も加わり文字通り老若男女問わず地域一体となった保存会に発展している。

普及費10万円支給

(2)宮城野雅楽会殿 (宮城県)

同雅楽会は、同庁管内の若手神職を中心に平成9年4月に設立された。活動は県内外の神社祭礼はもとより老人ホームへの慰問、役所市民センターでの講師派遣、学校のクラブ活動への指導等を行っている。平成23年の東日本大震災発生後は、「被災者の方々に

心の安らぎを」と同神社庁教化部と共同し雅楽の夕べ『観月会』を仮設住宅や公民館など8箇所で開催するなどの活動を展開し、また、令和4年にはNPO法人雅楽同友会(東京品川区)との共催で雅楽講演「雅道の友垣 in 宮城」を開催するなど一般人にも向けた活動を展開している。普及費10万円支給

(3)波上宮獅子舞保存会殿

(沖縄県)

同保存会は平成13年に設立されたが、獅子舞は戦前より続いており、神の宿った獅子頭を舞わし、悪魔祓い、厄除け、町内安全、無病息災を祈願した伝統神事である。戦火により当時の獅子頭は消失したが、昭和34年8月、波之上通り会のひとびとにより戦後の復興が叶い、継承されてきた。近年、後継者不足と青少年の健全育成のため子供獅子を新たに加え、「波上宮獅子舞保存会」を結成し活動を展開している。現在地域有志をはじめ小中学生の会員30余名で週一回の練習をし、例祭、節分祭をはじめ、各種祭事への出演などを行っている。普及費10万円支給

(イ) 神事芸能助成金

令和6年4月10日に開催した本会理事会において、本年1月1日に発生した石川県能登半島地震で罹災した石川県神社庁管内の下記団体に対し、神事芸能に対する支援金を支給することが決議され、同日の表彰委員会において支援金額を決定。1件につき10万円を支給することとなった。

《能登半島地震特別支援金受給者名》

- (1)正院町雅楽会殿(石川県珠洲市正院町)
- (2)酒垂神社雅楽会殿(石川県鳳珠郡能登町)
- (3)住吉神社御神事太鼓保存会殿(石川県輪島市河井町)
- (4)はくい獅子舞保存活性化実行委員会殿(石川県羽咋市)

以上4件

合計額40万円支給

B、その他の事業(出版等)

本会は、児童向け教化冊子「杜のシリーズ」8冊を神道青年全国協議会と共同で企画・発行しているが、平成24年度より、良書の普及を目指し、神道文化叢書第1輯の『神道百言』、同第6輯『皇室の御敬神』、同第7輯『続神道百言』を復刻、出版し好評を得ている。本年度は、『皇室の御敬神』1000部を増刷。

なお、昨年度の公開講演会「装束と神道文化」の講録を発行し、1冊500円にて販売。各会員に1冊贈呈。

以上